京都市伏見区の開票作業に不正行為はあったのか？！

次世代票を共産表に集計した事件

高田　純　2014.12.28

京都市伏見区で次世代の党の比例票 1500 票が共産党の票として集計されていた件は、集計ミスと断定できない、私たちの国の民主主義の根底を覆す事件の臭いがします。これは氷山の一角ではないでしょうか。安倍政権には、この事件を徹底解明していただき、再発防止策を打ち立てていただきたい。

今年は、理化学研究所の小保方によるネイチャー誌に掲載された論文の科学不正事件が発生しました。第三者の科学者が論文に記述されている方法で STAP 細胞が再現しないことから疑惑が指摘され、論文の中の写真ねつ造、文書の盗用が発覚、さらにＥＳ細胞が利用されていたことも理研の独自調査で明らかにされ、不正の全貌がほぼ解明されました。この科学不正事件は、いまだに本人が不正の核心について反省していない問題は残っています。またさらに、今後は、理研の中で再発防止策が打ち立てられなければなりません。

一方、国政選挙での不正は、国民の一人として絶対に見過ごすことはできません。選挙ポスター破りなどの妨害、買収、選挙券を不正に持ち出した身代わり投票などがこれまでにあります。今回の伏見区での票すり替え事件は全貌を解明しなければならない、とんでもない事件です。

最初にニュースとして報じられた事件を振り返ります。

「京都市伏見区の選挙管理委員会が、衆議院選挙の比例代表で「次世代の党」に投じられた１５００票を、「共産党」の票として誤って集計していたことが分かりました。

選挙管理委員会はいったん、開票作業を終えていましたが、京都府の選挙管理委員会から指摘を受け、集計をやり直したということです。

京都市の伏見区選挙管理委員会は衆議院選挙の比例代表で「次世代の党」の票を３８１票と集計し、京都市選挙管理委員会に報告しました。

これに対し、京都府の選挙管理委員会から「極端に少ないのではないか」という指摘が寄せられ、区の選挙管理委員会は開票作業を終えていたものの、職員や立会人などを再び集めて午前５時すぎから票の確認を行いました。

その結果、「次世代の党」に投じられた５００票の束３つ、合わせて１５００票が、誤って「共産党」の票として集計されていたことが分かり、集計し直した結果を改めて報告しました。

伏見区選挙管理委員会によりますと、集計ミスの原因は次世代の党と共産党の票の集計を同じ職員が担当していたため、混同したとみられるということで、内山修書記長は「多くの方々に迷惑をかけ申し訳ない」と話しています」　12 月 15 日　ＮＨＫ News WEB より

こうした事件が、その他の開票場でも発生している恐れがあります。発生していない証拠はないからです。意図的にこの種の不正が開票場で実行されていたなら、これは重大な犯罪です。

次は、12 月 17 日から 19 日に伏見区地域力推進室の開票現場にいた複数の職員に対する聞き取りです。知人から情報が寄せられました。

◎伏見区に於ける比例票の開票手順

・開票所は伏見区役所の大会議室。
・開票作業には民間人（主にアルバイト・国籍不問）と公務員の約 400 人以上が関わった。
・第 1 点検以降の作業はアルバイト等を除いた人員で行った。

具体的な作業手順は次のとおり。

◆第 1 点検

A : 2 台の計数機（計数担当者は約 30 人）で 100 票ごとに輪ゴムで分ける。白票や無効票を除いた後、2 人 1 組の 70 人体制・全 6 班で第 1 点検を実施。
B : 第 1 点検で各票に他の党が入っていないかを確認後、政党ごとに 9 カゴに分ける。
C : 仕分け後に、「有効投票計算書」を 100 票束の一番上に置く。

※「有効投票計算書」の左半分は繰り抜かれているので（窓が空いている状態）、有権者が書いた文字（政党名）がそのまま作業者に見える仕組み。

◆第 2 点検

D : 第 1 点検に関わった 70 人とは別の得票計算担当者 20 人が、100 票束を開けて中身を再確認。
E : 得票計算担当者が今度は政党別の 500 票束を作成。
F : 第 1 点検の時と同様の手順で「有効投票計算書」を 500 票束の上に乗せる（ここでも有権者が書いた政党名が「有効投票計算書」の左側に見えている）。
G : 得票計算書担当者が 500 票束を政党別に机の上に置いていく。

※広い机の上に 9 つの政党名が書かれた札があり、そこに得票計算担当者他が他政党と混ざらないように 500 票束を置いていく。

※あり得ないことですが、この机には監視者、管理者が不在。もちろん監視カメラもありません。

※結果的に、この段階で本来は 1881 票あった次世代の党の比例票のうち 1500 票（500 票束×3）が、ある担当者の手によって共産党の束に加えられた。

H : 2 人 1 組で 500 票束が何個あるかを確認し、投票計算簿に票数を記入。9 政党分ある投票計算簿（得票計算担当）を元に政党別に比例票を最終的に集計。

※政党別に集計が終わった 500 票束数と端数を投票管理者（4 人）が確認。但し、投票計算簿は確認しない。

決定的な問題は、G の作業を行う際、誰もチェックしていないという事実です。せっかく「A-F」の作業をタブルチェックも含め、厳格に行っても、最後の最後に抜け道、陥穽があっては話になりません。

もしも、悪意のある（例えば特定の思想に感化された）職員が（500 票束を運ぶ）担当者に化けていた場合、何食わぬ顔をして次世代の党の 500 票束（ここでは袴と呼ぶそうですが）3 つを、「共産党の比例票を集める場所」に持っていくことは極めて簡単です。

I の段階でも 4 人の「立会人」は票数を数えるだけですので、悪意のある行為を防ぐ（見抜く）ことは出来ません。もしかすると今回は「実行犯」が調子に乗り過ぎて（いつも成功しているから油断して）、問題が明るみに出ただけかもしれません。

以下の京都新聞の記事では、「マニュアルでは束と得票計算簿を確認することになっている。区選管の責任者も確認を怠ったという。」と書かれていますが、そもそもこのマニュアルは今までただの一度も守られていなかった可能性が高いといえます。

この隙を「選挙テロ」実行犯が計画的に突いても、何ら不思議ではありません。このような工作が他の開票所で実行されていないと誰が言えましょうか。これは民主国家の根幹を揺るがす非常に深刻且つ全国的な問題です。

※京都新聞の記事（2014 年 12 月 18 日）
『市選管事務局によると、投票用紙は計数機で読み取り、政党別に 500 票ずつ束にした投票用紙を得票計算係の職員が見て、得票計算簿にチェックを入れた。しかし、得票台に運ぶ職員が次世代の党の 3 束を共産党の束が積まれた場所に置いたという。さらに、区選管の責任者に票数を報告する職員が得票計算簿を確認せず、得票台の束のみを見て報告したため、誤った集計になったという。マニュアルでは束と得票計算簿を確認することになっている。区選管の責任者も確認を怠ったという。』

僭越ながら、以下のことを、伏見区選管に申し入れました。

・G の手順を厳格に行う。具体的には 500 票束を運ぶ担当者を政党別に分け、担当の一政党以外の票束には、指一本触れさせない。
・票束を運ぶ担当者には（例えば）前後に政党名を大書したゼッケン等を着用させる。
・500 票束を最終的に集計する机にも複数の監視者をはりつける。
・もちろん、すべての担当者は信頼できる人物の中からランダムに抽出し、絶対に互いに連携できないように配慮する。
・今回、共産党に 500 票束を運んだ人物の思想的な背景、人物像も調べるべきであり、同時に捜査機関の協力も仰ぎ、徹底的に根本原因を究明すべき（まずは疑ってかかるべき。もう性善説は通用しない）。
・今回の問題は民主主義の根幹を揺るがすものだ。全国的に同じようなことが発生していて、気づかれ

ていないだけかもしれない。
・二度と同じ問題を起こさないよう、伏見区選管は、全国の模範、モデルと呼ばれるほどの改善を早急に実施してもらいたい。

　上記を伏見区選管担当者にお話した際、「目から鱗が落ちる」思いだという趣旨のことを仰ると共に、「今までは性善説に基づき、選管職員を疑うことは一切なかったので、そのような対策は考えたことがなかった」との返事が返ってきました。なんたることでしょうか。私のようなド素人でも気づくことに目をつぶり続けてきたとは。もはや怒りを通り越し、驚愕のあまり己の耳を疑ってしまいました。

以上、取り急ぎ途中経過を報告いたします。